

第2回

グローバル化に対応できない

日本人の思考様式

令和4年11月12日(土)

講師：立正大学 名誉教授 ^{いけがみ} ^{かずお} 池上 和男 氏

日本は第2次世界大戦後ゼロから出発し、1980年代には世界第2位の経済を築いた。その頃からグローバル化の流れに乗って海外の合併事業に投資したが、多くが契約や従業員対策の甘さ等から失敗した。

その理由は、日本人の人間性善説に偏って行動指針の軸が定まらず、相手の対応を様子見する集団主義的思考様式が、キリスト教等の罪の意識に基づく冷酷な価値判断で動く世界経済に合わず、置いてけぼりを食ったと前置きし、日本人の行動様式についてのルースベネディクト等の見解を紹介した。

そして、グローバル化に対応するために新しい教育制度を導入して思考様式を変えること、さらに国際人として議論できる英語力と高い素養（教養）をつけることを挙げた。

また、日本企業の経営に対しては、戦後の日本の高度経済成長の要因となった「家の論理に基づく経営」から脱却し、労働時間短縮のための経営に変革することと説いた。

(文責 川合將義)



○参加者の感想・意見について（主なもの）

- ・いつも聞く人が少なく、もったいないと思っている。
(家でテレビを見ていた方が楽だが、それではボケてしまうのではないかと思い、できるだけいろいろな事柄に参加したいと思っている。)
何でもできる人間だと良いが、何もできない者にとっては講座はありがたい。
- ・仕事等で実践活動をしたり、成果を出している講師の方の講演を期待したい。
主張したいことをいくつか絞って、詳しく意見を聞きたい。